



私にとって身近な税金

大田区立馬込中学校 二年 吉田 澄

足が不自由な母。私の母は生まれつき右足の骨に異常があり、小学校高学年のころに手術を受けたそうだ。今でこそだいぶ良くなったが、幼いころは右足を自由に動かすことができません、生活にも様々な支障があったそうです。よく当時のことを私に話す。

「昔はあちこち階段ばかりで、エレベーターもあまりなくて、足の悪いお母さんだけでなく、お年寄りや体の不自由な人もしんどいだろうなって思ってたんだ」。

や、
「あと、地味に足をとられたのは道路のアスファルトの段差だったんだよね。登下校中突っかかってよく転んでたなあ」。
などである。

母が幼いころは、木の根によってアスファルトが隆起しているところや、わずかな段差が道路のあちこちにある、学校の登下校時によくつまずいては転倒し、怪我をしていたそうだ。

そんな母の話を聞きながら、ふと不特定多数が使用している道路は、どのように整備、維持されているのだろうかという気になった。調べてみるべく「自動車税」や「ガソリン税」等の税金が財源となっていることを知った。

道路は、母が子供だった頃より格段に滑らかに途切れなく発展したらしい。車の運転がまだできない私にも、この発展は車を運転する方達に安心安全を届けただろうと容易に想像ができる。皆が少しずつ負担している税金によって道路が整備、維持されよりよいものになっていく。そして、車を運転している方達だけでなく、今も少しの段差に足をとられてしまう身近な母のような人の為になっていることにちょっとした感動をおぼえる。

また、母の話をきっかけに他のところにも目を向けると、色々な公共施設でエレベーターの設置が進んでいることにも気づく。車椅子のスロープもよく目につくようになった。このようにところどころにも税金が使用され、メンテナンスされているのだろう。階段で大変な思いをされている方達の大きな助けになっていることと思う。

「税金」という名前だけ聞くと、中学生の私にはなんだか少しわかりにくい遠い存在のように感じていたが、家族をとおしてみると案外身近なものであるし、皆が安心安全に日々を過ごすために必要不可欠なものであると気づくことができた。この身近な税金から少しずつ見識を深めていき、税金への視野を広くもった大人になりたいと思う。